

飲食店としての職業奉仕

今から遡ること6年ほど前、2020年1月、新型コロナウイルスの感染者が日本で発生しました。

その当時を振り返ると、まさかこんなにも長期間にわたりコロナウイルスに怯える日々が続くとは思ってもありませんでした。わが町、河北町でも町長から通達が発せられ、町内会の総会等は控えるようにとのことでした。ちょうど3月の歓送迎会や各組織の総会シーズンの始まりのころで、我々飲食業界はこれから益々忙しくなる時期でした。そんな中で発せられた町長の通達により、わが町でも懇親会や歓送迎会などはことごとくキャンセルになり、料理を作りたくても作れない日々が続きました。また、政府による、緊急事態宣言や自粛要請により夜の飲食業は開店休業状態となり、人々から出合いやコミュニケーションの機会が奪われました。それは閉ざされた社会の日々の始まりでした。若者やネットリテラシーの高い人は、スマホやパソコンで対応できますが、年配者やお年寄りはどうすることもできません。感染者が増えると自粛要請、減れば緩和の日々が数年続きました。

その後、感染者数も減り、人々に普通の日々が戻りました。我々河北ロータリークラブでも普通に懇親会が開けるようになりました。あの時の乾杯の挨拶の様子は今でも目に焼き付いています。マスクをかけて参加している方もいらっしゃいましたが、各自、スタイルは様々でしたが笑顔溢れる乾杯を見たときは「飲食店を営んでいてよかったな～」と思えた瞬間でした。元総理大臣の田中角栄氏は人心収攬に長けた人と言われています。知人に会ったときに、まずもって最初に言う言葉が、「飯は食ったか?」、「腹は減ってないか?」だったそうです。人とのコミュニケーションには食べ物や飲み物が必要なことを知っていたのです。

我々飲食店の役割の一つにはコミュニケーションづくりのお手伝いをするのだと思います。人々が集って会話をするときの潤滑油として、お酒であったり美味しい食べ物であったり、また、その空間を心地よい処にすることも大切な役割であると考えます。労働時間が長かったり、土日祝日に休めなかったりと、飲食店は何かと大変なこともあります。お客様が楽しく笑いながらお話しして、盛り上がっている姿を見るのは、飲食店で良かったな～と思える瞬間です。お客様の中には、甲殻類アレルギーや、生モノが苦手な方もいらっしゃいますが、代替りの料理を準備し、提供することもあります。また、アルコールに弱いお客様の要望で「ウイスキーの水割りの振りして飲むから中身はウーロン茶にして」と言われることもあります。そんなお客様から帰り際に「美味しかったよ」、「助かったよ」、「ご馳走様でした」などの言葉を頂くこともあります。我々、飲食店のスタッフは、意識して「職業奉仕」をしているつもりはありませんが、誠実に謙虚に信頼性を重視してお客様に集いの場と料理を提供することが、小さいかもしれませんが社会課題の解決に繋がる一つの「職業奉仕」かもしれません。

さて、今週もロータリークラブの懇親会があります。実に仕事の8割が仕込みです。今日もまた、老体に鞭打って仕事に励みたいと思います。

真実に、公正に、好意と友情を深めるために。みんなのために。